

11月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5か年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	21,170	100	21,436	231	101	215	3	0.0	愛媛、熊本、長崎、和歌山、佐賀産中心で全体の9割を占める。11月からは早生みかんとなる。愛媛は果実肥大は良好で、L・M中心の入荷となる。熊本、長崎も果実肥大は良好で、M中心の入荷となる。全体の入荷量、価格ともに前年並みとなる見込み。
りんご類	8,322	101	8,602	242	110	243	2,199	26.4	青森、山形、長野産中心の入荷となる。品種はふじが約7割を占め、ジョナゴールド、王林など種々出揃う。青森のふじは11月中旬から出荷開始となる。果実はやや小玉傾向で、中心サイズは40～36玉となる。長野のふじは11月1日から出荷となる。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をかなり上回る見込み。
かき類	9,326	86	7,795	181	142	230	390	4.2	新潟、奈良、和歌山、福岡産が中心となる。品種は富有柿、平核無柿、次郎柿など。新潟の平核無は11月上旬からピークとなる。入荷量は霰害で生産減となった前年を大きく上回る。奈良の平核無は小玉傾向で、入荷量は前年をやや下回る。全体の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
西洋なし (ラ・フランス)	944	105	1,219	345	101	280	925	98.0	山形産中心の入荷でほぼ10割を占める。山形は果実肥大が良好で、2L中心の入荷となる。予冷追熟ものの販売は11月1日から開始となる。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格はほぼ前年並みの見込み。
メロン類	693	87	727	642	107	595	6	0.9	熊本、静岡、茨城産が中心となる。品種はアールスメロンが中心となる。各産地とも生育順調で、着果、果実肥大とも良好に推移している。ただし、全国的に作付面積が減少傾向にあり、全体の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。
ぶどう類	785	100	565	700	105	695	26	3.3	長野、青森、山梨、岡山産が中心となる。品種は巨峰、スチューベン、アレキサンドリアなど。長野の巨峰は貯蔵ものとなり、中旬までは量的にまとまるが、11月20日頃には終了となる。青森のスチューベンが肥大良好で2L中心となる。品質とも良好。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をやや上回る見込み。
いちご類	479	95	581	1,724	105	1,610	1	0.1	栃木産が約6割を占め、福岡、静岡、佐賀産などが入荷する。栃木は定植時期が平年に比べて1週間程度遅れており、11月下旬から増量してくる。福岡は11月中旬頃から出荷開始となる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。